



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1927, 7(4): 328-333

ISSUE DATE:

1927-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183247>

RIGHT:

○經濟上より蘭領印度 増井貞吉著 東京經濟學會發行 大

正十五年十二月廿五日 定價五圓五十錢

著者は三井物産の店員として南洋に活動すること十數年、其うち爪哇にありし八年間に社務の傍ら蘭領印度の經濟事情を調査し、啓明會の援助を得てこの書を出版した、菊判五百七十頁、一枚の略圖の外地圖又は圖版が無いのが物足りないけれども植民政策の推移から筆を起して現在政治の狀態をのべ蘭領の農業を詳解して代表的の歐人農業として砂糖、ゴム、煙草、茶、珈琲、規那の栽培から、石油、錫、石炭の鑛業問題にうつり、各國の經濟的活動を詳述して、更に日本人の投資と其經濟上の地位を論じて、我國民の注目すべき將來の活動舞臺たることを明にした警世的の好著である、地形や地質に關する迂濶な報告でなくて、當面直接の蘭領印度を知る上に於て絶好の同伴であると信ずる。(藤田)

雜誌 報

○曆の改革 世界大戰以來太陽新曆の改革は各方面より唱

導せられ、國際聯盟に於ても、委員を任命して、之が研究調査中であるが、元來太陽新曆の主なる缺點は、三十一日の月もあれば二十八日の月もあつて、一個月の長さが一樣で無く、上半季と下半季との日數にも相違があり、從て十二ヶ月を四季に分ちても四季の日數が一樣で無く、七曜日も各月に於て

各々違つて居て、統計や勘定其他商業上の取引等に不尠不便不規則を來す事は、誰も實感する處であつて、英米獨佛、諸國から前記國際委員會に數多の改革案が提出せられた模様であるが、誰も異論の無いのは八月から一日を取つて、二月に加へる事である、斯くすれば、十二月を四分した場合に、只十、十一、十二の三ヶ月の日數が九十二日に成る丈で、其他の三ヶ月は一樣に九十一日宛と爲る、尙根本的の改革案は、各年の曜日を揃へる爲めに、平年では曜日に屬せざる日を一日設け、閏年にば之を二日設ければ、毎年同じ日が同じ曜日に爲る、尙更に進で一個年を十三ヶ月とし、一個月を四週宛とすれば、各月の日と曜日とが揃ふ譯である、此兩案の便不便等は既に比較研究せられ、大體前案の方が善からうといふ事で、國際委員會も同意であるが、多數の宗教團體は反對の様子である、是れ迄太陽新曆の採用に就ても、幾多葛藤のニがき經驗のあることで、グレゴリーが新曆を採用したのは一五八二年であつたのに、英倫は一七五一年に至りて初めて之を採用し、東部歐洲では漸く七年前に採用した位であるから中々實行は容易であるまい。(Nature No. 2978. Vol. 118. 抄譯)

○大陸の構造

ケンブリッヂのハロルド、ザエフレイス氏 (Harold Jeffreys) は、一九〇九年のカルパ溪谷 (Kulp Valley) の地震、一九一一年のウルテンベルグ (Wurtemberg) の地震、及び一九二三年タリエレン (Taurin) の地震、チンパリ (Chimperi) の爆發のデータから、最も小乘法の計算に

より、脈絡波動の傳播速度に就き、上層毎秒五・六呎（オツバウ爆發に於ては五・四呎）、下層毎秒七・八呎、タリェルン地震では、中層毎秒六・二呎を得、是等の誤差は〇・一呎を出てゐといふ事である、此上層の速度は、ウィルリアムソン氏やアダムス氏が花崗岩に就て得た結果と一致してゐる、アダムス氏并にギブソン氏は、最近玄武岩玻璃に關して、毎秒六・四呎、デユナイトに關して毎秒八・四呎の結果を得た、是は通常温度で地下數十呎の壓力の下に於ける波動の傳播速度である、地殻の内部は相當高温なるべく、花崗岩の下は、デーリー氏の唱ふる様に、玻璃質玄武岩で、其下はデユナイトと想定すれば、地下約一二〇〇呎の深さ迄には、是以上急劇なる變化はありさうに思はれぬ、而して波動傳播速度は遠近地震の觀測の結果を綜合するに、深處程増加する様で、是等の速度から推せば、花崗岩層の深さは約一二呎、玄武岩層は約二〇呎と爲る、然るに震源の深さが不確實であるから、或は前記の結果の二倍位迄は考に容れねばならぬかも知れぬが、又一面には煤紙に地震計の書いた記象は、地震の間接波動の爲めに、直接波動の到達が幾分後れ勝であるから、此點から前に得た深さの結果は、多少過大と考へねばならぬ、是は遠距離地震よりも近距離地震に於て甚しい様である、兎に角此結果は不確實なもので、彼の地下増温率や大陸と大洋とに於ける重力均衡（Isostatic balance）に基く結果以上に信頼するには足らぬが、是等と比較綜合して、甚しい擡著が無いのは面白い。（Nature No. 2969, Vol. 118. 抄譯）

### 〇大島瀬戸

潮流急にして暗礁多く一千噸を過す船にして通るは甚だ稀で、三日に一艘位しか通らぬ、暴風雨の翌日に見ると必ず一艘や二艘は坐礁してゐる、毎日通る定期船でさへ坐礁することがある、故に吳軍港を根據地とする艦船は常に大島の南を迂迴して徳山にくる、海底から頭を出してゐる岩があるのを大磯といひ、干潮時に限つて頭を出す岩を小磯といふ、航行危険地として船員が頭を悩ますので、大島の北端には住吉神社が祀られてゐる、大島と本土との距離の最短は六町といふ、二つの岩礁の間には瀬戸貝（イヒガヒ）がある、大きい貝殻で長さ一尺に達し、最小三四寸はある、これは夏日漁夫が潜水してとるもので、乾したのを布哇に送くる岸に近い岩石の間にはイギス、トロコテン（寒天）がとれる、これも婦女子の夏仕事である、蓋しこの海峡は陥没が完全でないといふのであらう、海峡の北に聳えてゐる花崗岩塊を琴石山塊とする、西北東南の斷層がこの地塊に二つ通つて三區劃とする、其尤も東を錢坪山といひ、中央を城山といひ、西を琴石山といふ城山の東に殿畑斷層があり、西に鍛冶屋原斷層がある、斷層のバツスは一二〇米内外の高原で、人家が多い、山地はいづれも三百米以上で、城山の高さは三百五十三米、琴石山のごときは五四五米の高さがある、浸蝕に抵抗して殘存した老年性の地形である、従つてこの琴石山には奇石怪岩が多い、白湯村の奇岩には天狗岩、横目岩、立岩、イゴデン、烏帽子岩、ヒルコ岩などの名石がある、面白いのはこの大島瀬戸を欽明天皇の時に般若姫といふ姫が通られた

ときに一行難船の災にかゝられたといふ傳説があつて彼若寺が今もこの附近の伊保庄村にあることである。(山本庄作)

### ○スマトラの煙草

一名テリ煙草といふ、其起原はハバナ種とマニラ種の混合種にして、葉巻の外葉として品質世界第一の名あり、葉巻の内葉としては玖馬バナナの *Varelia*

*Indo* を世界第一とし外葉としてはスマトラ煙草尤も優良なり、和蘭にて製造せらるゝ葉巻が世界的聲價を博するは主としてスマトラ煙草を原料とするに由る也、其特色は葉の整一なること、葉の纖維細きこと、色澤優れたること、葉薄くして彈力に富む故なるが、この地の煙草が今日の盛況を見たる原因は一八六四年ニールホイスなる蘭人この地テリに來りて栽培を始めたるに基き、一八六五年五十俵の煙草を輸出し翌年百八十九俵を出したるが、品質優良なりしたために久しからずして企業家の來集あり、嘗ては唯だ濕地と密林に蔽はれし蠻地が數十年ならずして現狀の如き大栽培地の中心となれり、テリは北緯四度東經九十九度、ペナンの對岸に近く、一八六九年には資本僅に三十萬グルデンのテリ會社創立せらるゝに止まりしが、今や五千六百萬グルデンの資本に上り數個の會社あり、土王又は土人自治州より數十年の期限を以て土地を租借し、處女地を選びて森林を燒き拂ひたる後約一ヶ年放置し、然る後道路排水の設備をなし煙草を植付く、一回又は二回植付けたる後は數年間休耕す、六年乃至八年にして循環耕をなすを例とす、しかれども煙草業者は品質の低下を憂ひて近年人造肥料を施すに至れり、海岸より少くとも十キロ以内

の原野にして砂礫と粘土の混雜せる壤土を畑地とす、いづれもスマトラ東岸州にあり其植付面積は毎年平均三萬七千バウにして、租借面積四十七萬バウに達すといふ。

### ○銅世界產額

(單位佛噸)

一九一四年 一九一七年 一九二二年 一九二五年

米國	五五、五元	八七、〇元	三六、二五	七四、七元
墨國	八、三三	四、五三	三、三六	五、六六
加奈陀	三、〇七	五、〇六	二、〇三	五、〇〇
智利	四、六五	一〇、五二	五、九三	一、〇、一六
秘露	二七、〇〇	四、一六	三、一六	三、一六
獨逸	二、〇〇	二、六三	一、〇〇	二、〇〇
諾威	二、八元	一、八〇	五、七五	一、〇〇
西及葡	二、九〇	四、九〇	三、一〇	五、〇〇
日本	七〇、四六	一〇、〇元	五、九七	六、〇三
全アア	七〇、四六	一〇、〇元	五、九七	六、〇三
南洋州	六、六七	八、四四	一、八三	二、五九
アフリカ	二七、〇三	四、六五	三、五七	一〇、三三
世界產額	二六、六六	一、四三、七五	五、〇五	一、四元、三三

### ○印度オカの開港

印度のアラビア海側には古い時代から有名なボンベイの外には、漸く世間に知られてきたカラチ港を除いて、港と稱せらるゝやうなもの一つもない、従つて内地の物産を海外に出す不便が多かつたのである、然るに今同ボンベイ、カラチ兩港の中間にあるカシヤール半島の西北隅オカマンガルの一角ベイトに近き、オカ港が本年二

月四日、バロダ王の手に依り新に開かれたのである。夏はアラビア海から涼風が吹くので、最高華氏八十度、ボンベイよりも衛生的である。西南季節風を避けるために、埠頭に四百呎の突堤を設け、干潮三十呎の深さを有し、吃水二十六呎までの汽船の繫留に適する、カシヤワール鐵道がこれに延長聯絡するから貨物の輸送は便利である。

この港の將來は印度のデリー其他の重要都市に對してボンベイよりも距離が短い、ボンベイ、デリーは八六五哩であるに、オカ、デリーは八〇七哩であること、及英印間の航路を大に短縮するといふ二點に於て囑望されてゐる、即

ロンドン……………オカ 六、一八五哩  
同……………ボンベイ 六、二八四哩

といふから、約百哩は短縮されるのである、既に獨逸は同港の將來に着目してハンザ汽船會社の印度航路は今般に寄港することになつた、棉花輸出港としての同港の將來は洋々たるものがあるから、遠からず本邦の商船も亦この方面に寄航する必要が生じてくると考へる。

### ○過去三年間世界石油産額 (單位千バレル)

國別	一九二四年	一九二五年	一九二六年
米 國	七三、九四〇	七三、七五三	七五、〇〇〇
墨 國	二五、四七〇	二五、五五五	九〇、〇〇〇
ロ シ ア	四三、三二二	四二、四四八	六三、〇〇〇
ウ エ ネズラ	八、七五四	一九、六六七	三三、〇〇〇
波 斯	三、七三三	三、〇八六	三〇、〇〇〇

ルーマニア	一六、六六六	二五、〇〇〇
蘭領印度	二〇、四七三	三三、〇〇〇
ハル	七、八二二	二一、四〇〇
英領印度	八、二五〇	八、〇〇〇
アルゼンチン	四、六六九	五、八八八
トリニダード	四、〇七五	四、六四四
ボローラント	五、六五七	五、九六〇
コロンビア	四、四四二	五、二二一
サラアタ	四、一六三	四、二五七
日本	二、九六九	二、〇〇〇
日 本	一、三三三	一、三三三
埃及	四、三三三	四、三三三
佛 國	四、三三三	四、三三三
獨逸	四、三三三	四、三三三
カナダ	二、二二二	二、二二二
致須國	七、五五五	七、五五五
伊 國	四、四四四	四、四四四
アルセリア	三、三三三	三、三三三
其 他	四、四四四	四、四四四
總計	一、〇六、七三七	一、〇六、七三七

備考 表中、一九二四、及一九二五年度分は米國政府發表、又一九二六年度分は武富領事報告

右表に見ることく、米、墨、露の三國は世界での石油國であるが、其の他でコロンビアが見込の多い國に列しかけてき

た、これは同國マクダレナ平原のインフアンタス油田地からカータダナ灣へ送油管が完成したので一九二七年度には産額倍加する見込であるからである、何れにしても石油は新大陸のもので、米墨兩國の産高が世界總計の七割九分に對し、世界總計の八割五分が米大陸から出る、米墨以外の産も過去四年間に漸次増加してきた。

### ○イラク近況

イラクとは亞剌比亞語で懸崖の謂でメソポタミア平原と沙漠との境に峻峭たる懸崖が連るので、アラビア沙漠から出て來た民が古來かく呼んだもので、メソポタミアの一名である、トルコ領當時はバスラ州、モスル州、バクダート州の三區に分つて統治してゐたが、一九二一年八月二十三日アラビアのヘジャス國王ホッセンの第三王子フエイザル殿下が英國に擁立されて國王となつた、ついで一九二二年十月十一日英以兩政府の間に條約が結ばれて、一九二八年迄に國際聯盟の一員となることになつてゐる、大戦中にトルコ領のこの部分にトランスヨルダン、ヘジャス、イラクといふアラビア人の三王國が出来たその一つである。全面積一四三、二五〇平方哩、氣候は盛夏七八月の頃氣溫華氏百二十度にも達するが、冬期最低五十度以下つて、稀にはバクダートに雪がふる、而も其都度果樹及家畜に莫大の損害を與へる、大陸性の厳しい氣候である、二河の間は平坦な土地で、波斯灣から三百五十哩の地に位するバクダートの如き海面僅に一一二呎と稱せらるゝ、政體は政府の任命する二十人の元老院議員を上院とし、選舉による（八八人の代議士）下院を有する立

憲君主政體である、内政上、モスル、アルビル、キルクク、スレマイニ、ダイヤラ、バクダート、ヅウライム、クツト、カルベラ、ヒラ、ダイラニヤ、ナシリヤ、アマラ、バスラの十四縣に分つ、これらの名はいづれも同名の都邑からとつたものと見てよい、人口は二、八四九、八二二人で大部分はシヤ一派及スンニ一派の回教徒である、シヤ一派とは教祖モハメットの娘婿アリイを正統カリフとなし、最初のカリフ、アベケル、オマル、オスマンの三人を目して纂筆者と見るもので、アリーは教祖没後カリフの競争に敗れてイラクのグーハに逃げて來たので其地方のものが、アリー及其子孫を主長としてゐるに反し、一方の派をスンニ派といひ、互に仇敵視して血で血を洗つてゐる、千有餘年をへて今日猶この争がたえぬ。イラクはこの歴史からシヤ一派は一、四九四、〇一五人で、スンニ一派は一、一四六、六八五人、即シヤ一派の多い國であるが、今はスンニ派の嫡流である現王が統治するのは一見難事と考へられる。併し之に依りて兩派の融合が出来たらそれは結構なことである、鐵道はバスラ、バクダート間三五七哩は米英軌道で、又バクダートから東北カナキン（一〇三哩の支線があり、更に西地中海の *Beirut* 迄の間）に沙漠横斷自動車の便がある。又埃及バクダート間には空中郵便があり、チグリス、ユーフラートの水運がバスラ、バクダート間四九八哩に達する、産物としてはデザートが世界第一の産額で凡そ世界の八割方を生産する、又この國の石油事業

の警察は、大に有望とされてゐる。委任統治をうけた國は英國であるが、この古代バビロン・アッシリア文化の榮えた沃土が、灌漑の力によつて再び榮華を回復し、せめて西曆八世紀から十三世紀の間にこの地に隆盛であつたアバシッド王朝時代の回教文化を振起するならば、世界は英人の努力に感謝の辭を捧げるであらう。

## 質疑應答

問 グラン、チャコ (Gran chaco)

答 南米の各國は歴史も新しい上に、地理が十分明でない未探檢の所を持ちながら各獨立した故に、各國の間の國境に關して所々に爭論の種子が多い、例令はペルーとボリビアのチ、カ、湖北の境の如き漸く一九一一年に決定したのであり、ボリビアとブラジルとの境界のときもアマゾンの大森林地の間に設定したのであるから、Acre 川の兩岸に兩國各出兵して大なる困難を冒したことであつた、こうした多くの國境の争の中にこのグランチャコも亦ボリビアとパラグエーの境界争になる種である、チャコといふはインヂアン語で獵場といふ名で禽獸が多い、アルセンチンの北境でボリビアとパラグエー三ヶ國の間に跨る所謂南米のメソポタミアの低原である、ラプラタ川の支流 Pilcomayo 川が斜に之を二分して亞國・勃國との境をなし Paraguay 川が

質疑應答

北から流れて三角の東境を限る、係争はこのピルコマヨ川とパラグエー川との間の部分で、ボリビアはこの三角地即ちパラグエー川の右岸に進入して河港をつくり、電信局を建て、軍隊を置いて、ボリビアの唯一の南東通商路たるパラグエー川に達せんとしたので、殆んどボリビア領になつた處がパラグエーは其地方の古い植民の歴史から其國境の河の西にあることを主張した、蓋しこのグランチャコの平原は草原のみでなくて、熱帶森林もあり沼澤地もある、其森の中にはタンニンの原料として有名な Quebracho がある、パラグエーの資本でこの材木伐採所が多數川の西に出来て其或物は河から百哩も西の方に散在してゐる、牧場としての見込も多い、農業地としても亦將來があるから、兩國が之を争ふことになつたのである、一九一三年に兩國は從來の行懸りを全く白紙にした、而して兩國相互の間に於てこの國境所屬を新たに決定することになつた。しかし一九二六年の統計年鑑にはまだ決定したと書いてない、パラグエー川までがパラグエー本部であつて、チャコの部分は兩屬と見てよいやうである。(藤田)

問 ケニヤ (Kenya)

答 英領東アフリカは高山の名によりてケニヤ殖民地及ケニヤ保護領と稱せらる、東は印度洋北は一九二四年七月の條約によりて Jubba 川を以て伊太利領と境し、南は Umba 川を以て舊獨逸領東アフリカと界し西はヴィクトリア湖に達す、ケニヤ保護領とはタナ河口よりウムバ川に至る海岸